

## 2023 年度（秋学期）国際関係論専攻 調査研究助成 調査・研究報告書

受給者：久永優吾

所属：上智大学 グローバル・スタディーズ研究科 博士前期課程 1 年

研究課題：司法府（憲法裁判所）がトルコのエルドアン政権の体制維持に与える影響

### 研究背景および目的

本研究の目的は、「司法がトルコのエルドアン政権の体制維持にどのような影響を与えているか」を明らかにすることである。21 世紀以降、世界各地において民意を最優先する多数派民主主義と分権を重視する立憲主義のあいだで衝突がみられるようになった。その結果は司法部門が憲法審査を通して政治部門に大きな影響力を与える場合（政治の司法化）と、政治部門が司法部門を取り込み、支配する場合（司法の政治化）の 2 つに大別される。ただそれらの現象は権威主義化の兆候として論じられるだけで、権威主義の体制維持にどのように作用するかは十分に分析されてこなかった。

エルドアン政権は、上記の研究課題を検討するにあたって有用な事例である。なぜなら政治に対して司法が優位な時期と、司法に対して政治が優位な時期の両方を経験しているからである。そうした点を踏まえ、本調査ではトルコ憲法システムの全体像を把握しつつ、トルコ憲法裁判所の憲法審査の変遷を確認する。

### 研究成果

本調査では、アジア経済研究所図書館への訪問とトルコ書店からの文献取り寄せによっていくつかの文献を入手した。入手した文献は以下の〈表 1〉に示すとおりである。

〈表 1〉 文献リスト

番号	著者	発行年	文献名（訳）	出典
1	Özbudun, Ergun	2011	The constitutional system of Turkey: 1876 to the present（トルコの憲法システム：1876 年から現在まで）	New York: Palgrave Macmillan
2	Özbudun, Ergun	2017	Türk anayasa hukuku: 2017 Anayasa değişikliklerine göre gözden geçirilmiş（トルコ憲法：2017 年憲法改正に伴う改訂）	Ankara: Yetkin yayınları
3	Gözler, Kemar	2017	Elveda anayasa: 16 Nisan 2017'de oylayacağımız anayasa değişikliği	Bursa: Ekin

			hakkında eleştiriler (さらば憲法 : 2017年4月16日に投票される憲法改正についての批判)	
4	Kaboğlu, İbrahim Ö.編	2016	Türkiye'nin anayasa gündemi: 27 uzman, 66 soru-yanıt (トルコの憲法アジェンダ : 27人の専門家と66の質疑応答)	İstanbul: İletişim Yayıncılık
5	Kaboğlu, İbrahim Ö.	2017	15 Temmuz anayasası: nedenleri, süreci ve olası sonuçları (7月15日の憲法 : 原因、過程、起こりうる結果)	İstanbul: Tekin Yayınevi
6	Esen, Berk 編	2023	Türkiye'nin Yeni Rejimi : Rekabetçi Otoriterlik	İstanbul: İletişim Yayıncılık
7	Şahin, Engin	2010	Anayasa Mahkemesi: Siyaset ve Hukuk Arasında (憲法裁判所 : 政治と法の間で)	İz Yayıncılık

これらのなかでもトルコ憲法学者である Özbudun の2つの文献 (No.1, No.2) は、政治学・法学の両者の視点から憲法裁判所の役割を浮き彫りにするものであった。同時に Kaboğlu 編の文献 (No.5) も基本的な問いから、トルコ憲法についての理解を促すものであった。より具体的に Gözler や Kaboğlu の文献 (No.3, No.5) は、主に2017年の憲法改正について批判的な焦点を当てている。これらの文献はトルコの憲法システムの把握という課題の達成に大きく寄与し、今後の研究を進めるにあたっても有益な文献であると評することができよう。

さらにトルコの書店から取り寄せた2冊の書籍は議論の位置づけに役立った。政治学者である Esen が編著を務める文献 (No.6) は、最新のトルコの政治状況を批判的に示している。この書籍は直接的に憲法裁判所について論じるものではないが、憲法裁判所を取り巻く「競争的権威主義」と形容されるような政治的環境について、改めて確認することができた。いっぽうで Şahin の文献 (No.7) は比較の視座から2010年以前の憲法裁判所の機能を分析しており、その機能の変容を論じるのに有用な先行文献として消化することができたといえる。このような文献調査の成果をもとに、今後もトルコ憲法裁判所の政治的役割を明らかにするための分析作業を進めていく。